

- 令和7年度第1回電子カルテ部会で案を示したモニター調査について、委員からの意見を踏まえ、きめ細かく患者・家族のニーズを捉えた実効性の高い施策展開につなげるため、以下のとおり実施する。

1 実施方法及び調査対象

web調査（委託）にて都民800名程度（年齢や属性にはばらつきがないようにする）

2 実施時期

令和7年11月以降 → 第2回電子カルテ部会にて確認後に実施

3 調査の仮説

- ・待ち時間や通院の手間など、患者・家族は不安を抱えていて、解消できる手段を望んでいるのでは
 - ・これまであまり受診経験がない人たちも、潜在的に不安を抱えているのでは
- 不安・不満につながる要因やそれを解消する手段（DX）の具体的なイメージを持って回答できるよう、イメージ図（別添）を冒頭に添付

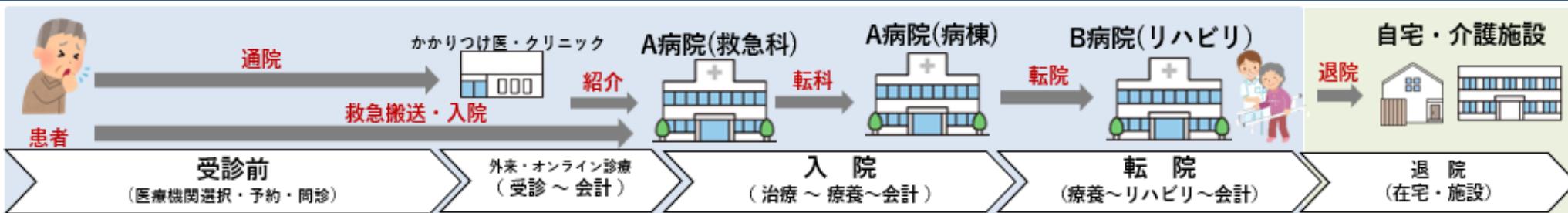
4 調査項目

- ・年齢区分・外来受診頻度・入院経験
 - ・受診に当たり不便・不満に感じていること（患者及び家族視点）
- 診療所（かかりつけや近隣など）及び病院（大きい病気・けがの治療や複数診療科の受診など）別
- ・医療DXに係る取組の想定される効果別に期待度合い（期待する～ほとんど期待しない）を4段階で選択
- 患者メリットの周知不足とされた電子カルテのほか、待ち時間など患者満足度向上のための都の施策展開につながるDXの取組を選定。既に国で取り組んでいるマイナ保険証や電子処方箋等は含まない。
- ・医療DXに求める取組上位を選択（3項目まで）

5 その他

- ・より詳細に患者ニーズを捉えられるよう、別途患者へのインタビューや病院における効果測定（導入前、導入後比較）を実施する。

医療DXによる患者メリット(イメージ)



電子カルテ



- 人によりわかりやすさにばらつきのある手書きではなく、
モニター上の記録や画像を通じたわかりやすい説明

電子カルテ共有サービス（国で導入準備中）など、情報共有に関する機能強化で得られるメリット

- 他医療機関での診療、検査、投薬情報などを救急医療機関、かかりつけ医等や患者自身が**共有すること**での
医療の質への安心感の向上
- 診療情報提供書（紹介状）などの電子的な共有による**待ち日数や来院の手間の削減**
- 過去の患者情報を医療機関同士が共有することで、
複数回の説明の手間や**身体的・経済的負担が大きい検査の重複、飲み合わせの悪い投薬、重複投薬の減**



電子カルテとの連携や、アプリ等の導入により得られるメリット

web予約システム

- 電話以外での予約方法の確保
- 院内待ち時間短縮、混雑状況の把握
- 受診忘れの防止（リマインド機能）

web問診システム（自宅等で問診）

- 院内待ち時間短縮
- 問診の利便性向上



診察待順案内

- 院内待ち時間短縮



文書（診断書や各種証明書等）のオンライン申請

- 来院・郵送の手間削減

オンライン診療

- 通院の手間削減
- 感染リスク低減



後払い会計システム

- 院内待ち時間短縮
- 支払い忘れ防止

処方箋送信サービス

- 薬局での待ち時間の削減

オンライン面会

- 対面が不可能な場合、遠方・
疾病を問わず面会が可能（家族）
- 感染リスク低減（家族）



PHRシステム（個人の医療情報を患者自身、医療機関等と共有できるシステム）

- 医療の見える化
- 継続的な健康管理